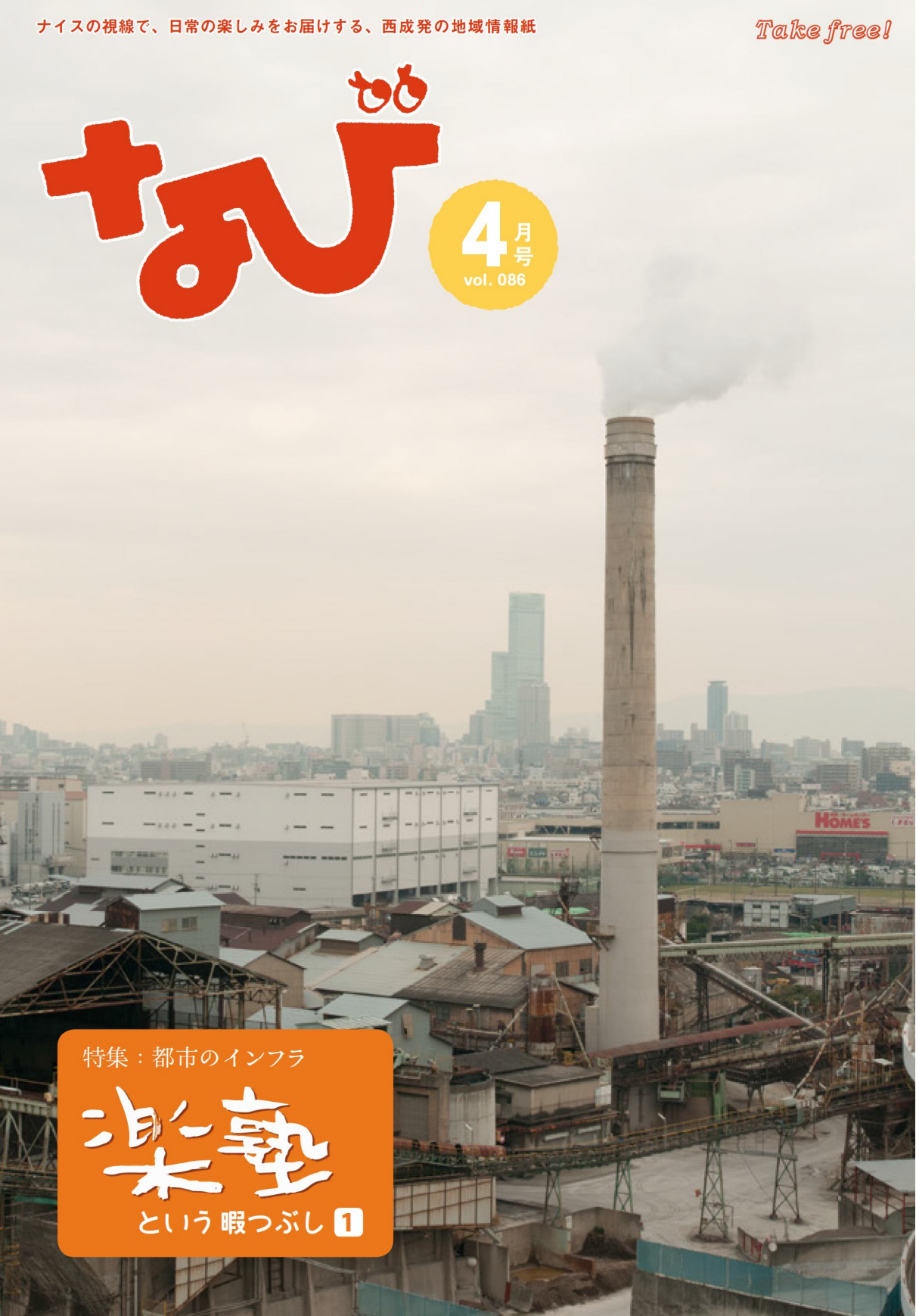
ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報紙

Take free!

なび

4月号
vol. 086



特集：都市のインフラ

楽塾

という暇つぶし 1

特集：都市のインフラ

楽塾という暇つぶし 1

佐々木 敏明
楽塾 主宰（株）ナイス非営利部門
「くらし応援室」所属

私は社会運動とか啓発などという仕事をしているわけではありません。そんな教条や能力など持ちあわせていないし、それほど興味もないのです。しかしエンターテイナーというなら大いにうなずけます。人が楽しみ、自分も楽しめれば仕事がこんなに面白いことはない。〝社会正義〟、〝人道支援〟などという言葉には胡散臭さを感じてしまいますが、〝応援〟というとそこそこ気が楽だし、無責任さもあってちょっと救われる言葉です。相談機能を持つ「くらし応援室」の名称も〝支援室〟では大げさだと思ったからです。

行き場の少なかった人たちの「楽塾」という学校づくりを続けてそろそろ7年目を迎えます。近頃、「社会的な居場所支援」という事業がさかんですが、私は当時から学校＝寄り合い、暇つぶしの場として位置づけてきました。行政の助成金などを受けず、塾生たちの参加費と会社の応援でやってきました。ここで「楽塾」の宣伝などをして、無責任な応援団長の語りを聞いていただこうと思い、2カ月にわたり掲載いたします。

楽塾の発端

もう十数年も前のこと。住む家がない、高齢や住所不定で仕事がない、精神や肉体の不調和でしかも相談相手がいないなど、年齢にかかわらず、さまざまな理由や動機を持ちながらもその場所から動けず、自ら野宿という生活を維持していた人たちとかかわりあった。私はその頃、大阪市内一円で、毎日多くの野宿者に聞き取りをしていた。1年半ほど続けた現場で、たくさんの課題や問題点を彼らから教えてもらった。

その後の2002年春、西成区の鶴見橋商店街の一角で「くらし応援室」を発足させた。（株）ナイスという地元企業内に、非営利事業部を立ち上げる計画を引き受けた。ここでの作業は、当事者の日常の生活相談や就労応援が大きな柱となっていた。企業へのリクルート作業を通し就職口を増やし、公園清掃などを一緒にやりながら、一方で民家を借り上げ、野宿やドヤ生活から切り離し、安価な通勤寮をつくったこともあった。そして、当事者たちの話を受け、学校のような寄り合いの場所、暇つぶしの場をつくりたいという妄想を続けていた。

家庭や教育の場からは放り出され、職場では孤立し、ギャンブルやアルコールの依存など、自らをいやしめる暮らしから抜け出し、失った自分の片割れ探しや自らを回復する場が学校のイメージであった。時間をかけ定期的な研究会やワークショップを試み、「楽塾」という学校を08年7月に開校させた。その後、就労支援や居場所づくりを推進する豊中市がこの試みに興味をもち、行政委託としての「楽塾」も始まった。

給食の様子

私は、社会的困難者はどこでもいるので、とくに西成にこだわりは無く、あちこちに暇つぶし場をつくりたいと考えている。だから豊中市のオファーは嬉しかった。そして、野宿者や生活保護者だけではなく、年齢に関係なく暮らしにもがく男女の寄り合い場を手伝うようになっていく。

背景

路上での出会いや、「くらし応援室」での相談に訪れる男たちとのかかわりは、仕事の斡旋、借金始末、医療対応、住居探し、生保申請などのほか、風俗店に勤務した男の不払い給料取立てや、刃傷、自傷、孤立死で警察沙汰につきあうなど多岐にわたった。そしてそれらの作業は、従来から協助でやってきた外部協力者たちの存在が大きかった。中間就労支援施設やNPO組織、医師、ソーシャルワーカー、弁護士、企業、地域の商店経営者やアパートオーナーなど、一人でやる私の作業に、さまざまな局面で応援やアドバイスをしてくれた。そんな協力者たちの後押しのおかげで、私の作業は今も成立している。

楽塾の旅行

生活、就労などの相談の場「くらし応援室」を開設した6年のち、やっと「楽塾」が誕生した。その開校の動機は、就労や生活保護を最終ゴールとしないこと。新たな価値をつくることであった。というのも、生活の一定基盤（仕事・住居・生活保護など）が出来ても、アルコールやギャンブルの依存、受給日に借りた金を返済せず遊び金に使ってしまうルーズな金銭感覚、遁走と回帰を繰り返す青年らの生活癖に注目していたからだ。何よりも暮らしを楽しむ選択肢の無さには、少しばかり選択肢を広げる手伝いをしてみたい欲望にかられていたことも事実である。おおげさに言えば、船が暴風や大雨にひととき避難する寄港地のような場が「楽塾」のイメージであり、いつどんなときでも誰でも戻れるところという場を想像していた。

楽塾のつくり方

開校当時、楽塾の理念を3つの回復ととらえた。①人間性の回復、②健康の回復、③仕事からの回復がそれだった。①では自身をいやしめ、その日の刹那的生活が日常で、遁走や流され続ける男たちの心の回復の場。②では酷使してきた肉体や劣悪な食生活や飲酒で疲弊してきた男たちや、もともと精神・知的疾患を持つ男女が回復をのぞむ場。③では、これまでの仕事や経済至上ではなく、自分たちが納得できる仕事づくりをイメージし、これまでの常識や価値のしばりから脱却し、仕事から回復していく場と設定している。

そして、それぞれの回復をテーマに各週のプログラムを作成していた。現在は回復という理念にこだわらず、楽しさと好奇心を促すプログラムをつくり続けている。

さて、私たちが現在「楽塾」を開校している場所は地域の銭湯である。お風呂に行く要領で暖簾をかき分け、下足入れに靴を突っ込み、下足札を抜いて入場し、番台のおばさんに「楽塾に行きます」と声をかけ、地階の交流室に降りるとそこが「楽塾」だ。そしてそこは「くらし応援室」の事務所も兼ねている。

週1回、土曜日夕方からの開校で、2時間の授業にはゲストを用意した。ゲストについては、一芸を持つ友人知人や独自性に秀でた社会人に協力をしてもらった。例えば工芸家、教師、教授、NPO主宰者、僧侶、地域職人、セラピスト、医師、芸能人、広告家などなど。ただし著名人やエライ人などはいない。だから多くは教壇のプロではない。彼らは「楽塾」へのボランティア的関心と、自らのこれまでのキャリアを、「楽塾」というステージで試そうという興味を持ってくれたのだ。ゲストに対し交通費という超薄謝しか払えず、しかしそれらをゲストは許容してくれた。授業の後はゲストと一緒に給食をしたが、それは給食は人をつなぐ大きな源泉だと考えていたからだ。

ただ、悩んだのが塾生たちの参加費だった。だいたい生活困難者から金を取るという発想は、いわゆる支援側にはあまり無い。実際、「楽塾」開校後、参加費の徴収を露骨に批判する人もいた。私たちも初めは無償という呪縛に悩んだが、従来からある供与主義や何でもタダという不文律は、塾生の自尊心を養うためにも不遜だと考えあえてやめることにした。ここでは参加費1,000円を自己投資として徴集することこそが大事だと思った。

ワン・オブ・ゼン

普段パチンコやギャンブル、お酒に消費する金額の一部を「楽塾」という選択肢にも使ってもらうだけのことだ。ゲストへの感謝料2,000円をみんなでワリカン、給食にかかる500円の費用を各自で負担すること。そこからの余剰金は文房具や備品などのために「楽塾」でストックしておくこと。これらを「楽塾」参加へのハードルにした。自分たちの生活の選択肢を広げること、孤立からの脱出、福祉などという名で与えられ続けることからの解放だ。そんな契機になればと考えた。

開校までには、路上聞き取り時代の男たちや、「くらし応援室」の相談者たち（その多くは生活保護者たちである）を中心に塾生集めをした。その当初に参加した塾生たちが楽塾の創世記を担ってくれた。2014年2月22日現在まで226回の授業が行われ、「楽塾」が一度も休まず継続できたのは、累計2,500人以上の参加者と、200人以上のゲスト協力者、そして、（株）ナイス内で私のわがままを許してくれた我がパトロン冨田一幸氏の応援の賜物であると考えている。

（この項次号に続く）

［田岡秀朋］「タケオ」コンサートに親子で参加。帰りの道中、手当たり次第に叩いては音を出す楽しさに目覚めた息子に困惑しました。

［平川隆啓］高いものさがして歩いてると、実際のぼってみたくなります。屋上とか煙突とか。おとなり浪速の100m通天閣はのぼりましたが、おとなり阿倍野の300mハルカスはまだです。

大阪の南、西成とその周辺の味わい深いまちの魅力を掘り下げつつ、地図に重ねていく「サウスオブミナミ」。雑多なカルチャーの集積地サウスオブミナミの深層にちょっと触れながら地図を描いていきます。

サウスオブミナミ

vol.13

風景のなかの「高いもの」

いよいよ2年目に突入のサウスオブミナミ。さらにテーマやエリアを掘り下げながら、地域の色を引き出していきます。
さて、今回は「高いもの」編。ビルや煙突などの建築物から、屋上などに設置された看板。昔からある大きな木や、軒先に高く積み上げられたモノなど、それらは風景のアクセントになります。その高さゆえにランドマークにもなれば、まちなみにちょっとした変化を与えてくれます。そんな、まちのイメージ、景観を形づくる個性的な高いものを探してみました。
今月号からはより濃い内容をめざし、隔月でお届けしていきます。

No.1
高いものトリオ

大きな木と、鉄塔と、ハルカス。公園のように広がりのあるスペースからは、周辺や遠方の高いものが目に飛び込んできます。また、お互い離れた場所にある高いものが、並んで見えると奥行きも感じられます。

No.2
風呂屋の煙突

西成区には、40ほどの銭湯があります。丸くてどしんと構えたもの。屋号の文字が目を引くもの。いつもの時間にもくもくと煙を出し始めるもの。そんな煙突のある光景も珍しくありません。

No.3
道の間からのぞく鉄塔

この辺は碁盤目状のまちなみが広がり、道の先や隙間から高いものが遠くからでものぞいて見えたり。実は、日本で初めて宅地開発を目的に区画整理された地域なのです。

No.4
壁面に飛び出すパイプ

外壁をはうように上へと向かう換気扇のパイプ。ここはふたつ仲良く設置されていました。他にも、壁面の凹凸にあわせて折れ曲がったものや、障害物を避けるようにななめになっているものなど、カタチはいろいろ。

No.5
屋上看板

ビルの屋上などを使った看板も高さを誇るもののひとつ。色や形、大きさで競い合うように設置されています。建物との意外な組み合わせもキッチュさを増してよく目立ちます。

No.6
まちを貫く巨大高架

高速道路、鉄道など、西成区には約 5 本もの高架が走っています。高架下の高さのある空間は、一般道路だけでなく、店舗や倉庫などの建物が組み込まれたり、空間をそのまま広場などに使ったりしています。

No.7
隙間から突き出るものたち

木が建物に寄りかからないよう、がっちりと真っ赤な支柱が建物から高く突出。建築物だけでなく、身近な自然やちょっとした工作物、高く積み上げられたものなど、まちには高さを感じられるものがあふれ出しています。

No.8
背高のっぽの町工場

西成には、大小さまざまなものづくりの企業が集まります。波板トタンの大きく口を開けたのっぽの工場もまちの風景。

No.9
見通す先に煙突

道の先に見える大きな煙突。見通しのきく通りでは、その奥に煙突や木、建物など目にとまります。サイドの建物が連続することでの奥行感もあいまって、印象的な風景が演出されます。

No.10
工場地帯と煙突

大きな構造物が集まる、木津川沿岸。煙突やクレーンなどの高い構造物。大きなボリュームの工場や、広大な資材置き場など、巨大スケールの持つ迫力を間近に感じられます。

No.11
工場団地からのぞく煙突

いろんな町工場が軒を並べる工場団地。いろんな機械音や油のにおいとともに、少し遠くにのぞく煙突をながめながらまち歩き。働くまちの光景です。

No.12
高くてながーい眼鏡橋

ビル 12 階建てに相当する高さ36m。大きな船も行き来できるよう、桁下を高く広く確保できるループ橋は、地元では眼鏡橋の愛称で。（千本松大橋）

text・photo：Hirakawa Takaaki／illust：hidarimaki・chiyoko

「なび」をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。
多様につながる実践を紹介していきます。

ナイスな仲間たち

VOL.01 **ぐらん・じゅ**

「世界とつながる一体感」ぐらん・じゅコンサートを開催

国際障害者交流センター「ビッグ・アイ」にあるCAFE&DINNING「ぐらん・じゅ」では、月に一度、ライブや展示会などを楽しみながら、地域とつながるイベントを実施してきました。2013年度最後は、新倉壮朗＜タケオ＞のアフリカンドラムのコンサートを開催。リズミカルで突き抜けるようなドラムの音は、場を一気にあたため、みんなを包み込みます。今回、開催された3月21日は、世界ダウン症の日。彼もダウン症で、世界各地で活躍。他にも、ダウン症フォトグラファーの川田たいしさんや、アフリカと接点のあるサークル、地域の人たちが集まり、子どもも大人も一緒にドラムを奏で、踊りました。その後は、食事をしながら楽しく歓談。いろんな世界につながるささやかな場が生まれました。

CAFE&DINNING「ぐらん・じゅ」
国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）内
〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台 1-8-1
WEB http://www.big-i.jp/

[飯田沙保里] 気づけば一番お気に入りの場所の桜が咲いていました。新年度も楽しい一年になりますように！

[高橋静香] いよいよ新年度がスタート。息子も進級し「お兄ちゃん」という気持ちではりきっています。春は、新タマネギ新ジャガイモ新キャベツと、野菜が甘くて美味しくてうれしいな～

いい湯かげん

資産も不安も格差もある団塊世代

高齢社会というが、要介護の「認定シニア」は17％で、大半（83％）は「アクティブシニア」で、その内の認定シニアになる危険性のより高い層を「メザニン（中二階）シニア」と呼ぶそうだ。いわゆる団塊世代（ボクは一つ下の世代だが）の高齢化で、この層が今後アクティブ層の40％程にまで拡大するという。

『なび』前号で、社会福祉法人の内部留保に立ち入ったが、我が国最大の「内部留保」は、900兆円とも言われる高齢者の個人金融資産で、資産も不安もあるメザニンシニア、団塊世代への市場競争が始まっている。社会福祉法人にも課税すれば良いという訳には行かないように、市場競争だけで個人資産が活かされるとは限らない。何せシニア世代には資産も不安もあるが、格差もある。さらに、シニア世代の資産が次世代への投資に回らないと世代間格差を広げ、団塊ジュニアに悲しい老後がつけ回しされる。浦和レッズは「サッカーから差別を根絶する」と宣言し感動したが、ボク達も格差を残す訳にはいかない。

ボクは、『なび』既号で、部落解放運動の前身の水平社になぞらえて、これまで水平線の下の人を押し上げる運動をやってきたが、これからは水平線の上の人を水平線まで押し下げる力で、水平線の下の人を引き上げていく社会運動に取り組むと提唱してきた。この互助（協働）の社会のための事業的、運動的社会投資を「社会運動の自己革新」という表現で表してきた。では、どんな社会運動、社会的企業で、同世代の格差を是正し、次世代への投資にするのか。

ボクの提案の一つは、高齢者等がいま最も切望する地域の「居場所（コミュニティカフェ）」を創るということ。二つ目が「社会住宅」で、介護サービスや、若者もシェアしながら住める良質な賃貸住宅を供給することだ。三つ目が、（株）ナイスのような企業を創造し、公園の指定管理者にも応募し、幾つかのLLP、LLC、事業協同組合等にも参画して、雇う／雇われるを超えた社会的企業で若者等を迎えること。そして四つ目が、公共サービス等の委託業務の労務単価積算に就労支援費を加算し、総合評価入札等で競うことで、働くことに困難を抱えた人々の「中間的就労」の場を創ることだ。

四つの提案はいずれも現在進行形で、団塊世代の社会的投資で、同世代の不安（ニーズ）を互助で守りながら、次世代のために「居場所」と「住宅」と「企業」と「（支援）雇用」をプレゼントするという構想だ。あえて子孫のために「美田を残す」というわけだ。

団塊世代の象徴であった全共闘運動は「学問は誰のために」と問うことから始まったが、1千万人を超えるこの世代が既得権益に固執すると、日本はとんでもない不平等社会の袋小路に陥ることになる。「資産は社会のために」活かされることが遠い日に見た夢に重なると、ボクは思う。

㈱ナイス代表取締役
冨田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[四井恵介] あったかくなって、桜が咲いて、新年度がはじまりました。これから「なび」はどこへ向かっていくのでしょうか？楽しみです。

ある日のROW

今月の花：デイジー

花言葉「純潔」「無邪気」

和名は、雛菊です。白、ピンク、赤と様々なかわいい色合いが、春の花壇を彩ります。

花屋の2階に住んでいたN君、40代のおとなしい人が突然いなくなってしまいました。真面目で花屋の仕事もよく手伝ってくれて、みんなにやさしく頼りにしていたのに。お友だちに少しの借金をして、それが返せないと思ってどこかへ行ってしまいました。さみしくて悲しくて心配しています。早く帰ってきて～。みんな待ってるよ～。（なんばひとみ）

ピースのつぶやき

ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。

『おめめの体操』

プンプン怒ると
おめめが上がる。
かたかなハの字が
ひっくり返って
尻もちついた。

ニコニコ笑うと
おめめが下がる。
ひらがなへの字が
二匹ならんでお散歩してる。

ワンとおどろくと
おめめが丸くなって、
くるくる渦巻き
かまぼこのできあがり。

シクシク泣くと
おめめが消えて、
見えずにたいへん！
迷子になっちゃった。

♪上がり目、下がり目、
くるりと回ってワンコの目
ワンワン!!

赤井まゆみ

枝葉末節

超絶的アバンギャルド

hidarimaki こと佐々木です。「あたたかき光はあれど野に満つる香もしらず浅くのみ春はかすみて」この時期に思い出す藤村の千曲川旅情の歌です。そして桜が満開になり、今年も４分の１が過ぎました。

本年の文楽劇場新春公演では、午後の部の3演目を楽しんだ。正月のめでたさ気分を祝うプログラムが並んでいて、人形浄瑠璃の技を象徴する高度な演目にも出会えたので、久しぶりに文楽のお話しをしてみたくなった。

大道芸人と面を売る女を描く一場ものの「面売り」。猿回しの猿たちが、男女の愛を応援する「近頃河原の達引（たてひき）」のうち〈四条河原の段〉と〈堀川猿回しの段〉。最後は、横恋慕する男の執拗な拷問を制し、傾城（遊女）阿古屋に琴や三味線、胡弓を奏でさせ、見事な演奏を評して温情代官の裁定を描く「壇浦兜軍記（だんのうらかぶとぐんき）」〈阿古屋琴責（あこやことぜめ）の段〉が、今回私の見た公演内容だ。

とりわけ今回の白眉は、「壇浦兜軍記」〈阿古屋琴責の段〉における凄まじい三業（「なび」13年2・3月号「文楽」拙文参照）競演の気迫が、客席に大きな刺激をもたらし、文楽の真骨頂を見たような気分になった。この夜の観客たちは、おそらく満足感を胸に家路についたと思う。少なくとも、私はこの名場面を今後も記憶にとどめておきたい。私にとって「壇浦兜軍記」は初めて見た演目で、だから〈阿古屋琴責の段〉ももちろん未見の物語だ。この夜のそれはイリュージョンだったし奇跡のようにも思える。

まずは〈阿古屋琴責の段〉のあらすじを話しておきたい。平家一門の景清を追討すべく源氏の代官重忠が、景清の愛人である傾城阿古屋を詮議し、景清の居場所を聞きだそうとする。しかし景清の行方を知らぬ存ぜぬで通す阿古屋に、代官は琴、三味線、胡弓を持ち出し、これらの楽器を演奏させることで、阿古屋の心情を告白させようとする策略をとった。つまり琴責めと称する拷問である。彼女は、これらの楽器を順序よく奏で、景清との出会いや切ない愛を語るものの、彼の所在については触れなかった。

阿古屋に横恋慕する同僚の岩永は重忠のやり口を非難するが、重忠は阿古屋の楽器演奏の証言にうそはないと断じて釈放する。ここでは阿古屋に対し、思いやりや理性で裁こうとする重忠の人格――傾城が得意とする楽器を使い、琴責めという形で〝拷問〟する代官の粋（いき）――が描かれるのである。

文楽（人形浄瑠璃）は、浄瑠璃、三味線、人形使いの三業で成立する。三業それぞれの役割が一つになり、文楽という演劇のかたちを彫りきざみ、立体的造形物として、そして生きものとして完成させていくのである。どんな演目にも三業の緻密なアンサンブルが必要だし、生きものとしての息づかいを最優先する。そしてそれらを統括するのが三業の力業（ちからわざ）だ。しかしこの夜は、文楽のすべてが凝縮されたような、それは、三業という単純な職分の割りふりだけでは理解できない、人形浄瑠璃という〝生きもの〟が存在していた。

傾城阿古屋

重忠が傾城阿古屋を前に、岩永のひどい拷問をいましめ、楽器を用意して彼女に演奏するよう命じる。舞台中央には阿古屋、舞台上手（右側）に張り出す出語り床には太夫と三味線が並ぶ。傾城の琴の音をつまびく手、恋の語り、そして舞台道具の琴に血が通いはじめる。もちろん語りは出語り床に座る太夫、琴の演奏はその隣に座る奏者なのだが、もう人形が演奏しているとしか思えないぐらい、語りと琴音と人形のしぐさが溶けあい、生きものとなっていく。つづく代官が要求する三味線、胡弓の演奏もますます生きものに血肉を増し魔術を生んで、舞台上のただならぬ妖気が観客に伝わってくる。

この阿古屋の人形遣いは桐竹勘十郎、三曲（琴・三味線・胡弓）奏者は鶴澤寛太郎で、両者の超絶的技巧が完璧な競演を見せた。とくに若手の寛太郎が奏でる三味線や胡弓は、まるでジャズ。拍手喝さいしてしまった。これからもこんなに面白くアバンギャルドな文楽を、経済原理で押しつぶそうとする為政者たちに見せてやってほしい。

hidarimaki

思いたったら！
にしなりカレンダー

春を陽気に、より道ぶらぶら特集

ぶらぶらアート

tic-toc PON（チクタクポン！）～中村真由美個展～

細密に描き込まれた油彩画、ポップでカラフルなイラストレーション、張り子…。奈良の福祉施設たんぽぽの家で活動する中村真由美は、のびのびと率直な表現で見るものを明るく楽しい気分にしてくれます。
会期中はご近所のお店（あおぞらアトリエ・uni:neu）でも中村作品を展示。ギャラリースペースとは違う場所でも作品に出会える「寄り道展示」が開催されます。

日時：4 月 19 日（土）- 29 日（火）
　　13:00 - 19:00（最終日 17:00）
場所：ギャラリーあしたの箱（岸里東 1-6-7）
問合：ギャラリーあしたの箱
TEL/FAX：06-6659-8892
MAIL：info@ashitanohako.com
WEB：http://www.ashitanohako.com/

より道ジャズ

西成ジャズライブいろいろ

本格的なライブを身近に楽しめる西成ジャズ。
お店のおいしいお酒や食べ物を楽しみながら、投げ銭でジャズを楽しもう。

＜成田屋ライブ＞
日時：4 月 29 日（火・祝）17:00 - 、18:00 -
場所：おでん成田屋（西成区山王 1-16-22）
チャージ：投げ銭（アナタが好いと思った分だけ！）
出演：臼井優子（ボーカル）、廣田昌世（ベース）、松田順司（ドラム）

＜難波屋ライブ＞
日時：4 月 30 日（水）19:00 - 、20:00 -
場所：立呑み難波屋（萩之茶屋 2-5-2）
チャージ：投げ銭（アナタが好いと思った分だけ！）
出演：阪井楊子（ボーカル）、宮藤晃妃（ボーカル）、
工藤隆（ピアノ）、山本久生（ベース）、松田順司（ドラム）

ほか、いろんな場所で開催中
WEB：http://nishinarijazz.blog133.fc2.com/

ふらっと親子サロン

ぴよちゃんネット保護茶会 ～いつでもどこでもみんなで子育て～

お子さまを囲んで、のんびりほっこり。いろんなことをおしゃべりできるお茶会が開催されます。
乳幼児親子が気軽に立ち寄れる雰囲気で、つながりながら子育てを応援する集いの取り組みです。

日時：4 月 25 日（金）10:30 - 11:30
場所：西成区子ども・子育てプラザ
対象：乳幼児親子
参加：無料・申込み不要
問合：西成区子ども・子育てプラザ
TEL：06-6658-4528

他にも…

西成区区民卓球大会（市長杯予選）

日時：4 月 20 日（日）10:00 -
　　※応募締切：4 月 4 日（金）
場所：西成スポーツセンター第 1 体育場
参加：500 円、西成区在住・在勤者
　　（15 歳以上 ※中学生は除く）
主催：西成区体育厚生協会・西成区役所
申込：西成区役所にて申込、詳細は WEB 等
WEB：
http://www.city.osaka.lg.jp/nishinari/page/0000256788.html

あとがき

楽塾はお風呂屋さんの地階にあります。隣がボイラー室で、真冬でも暖かく、暖房は不要、寒い折の訪問者からは喜ばれます。でも、暑い季節はつらい？ご心配なく、全館冷房になり、私たちの部屋にも、そのおこぼれがあります。いちど遊びにきてください。

（佐々木）

なび 4 月号（vol.86）
発行日：2014年4月10日（創刊日：2007年1月1日）
発行：株式会社ナイス
発行人：代表取締役 冨田一幸
印刷：有限会社前山企広
住所：大阪市西成区長橋3-6-33　電話：06-6563-1156
E-mail：info@nice.ne.jp url：http://www.nice.ne.jp/

編集長：佐々木敏明
編集・表紙写真撮影：田岡秀朋、平川隆啓、四井恵介、飯田沙保里
イラスト：hidarimaki
デザイン：高橋静香

表紙の写真「めがね橋（千本松大橋）から煙突とハルカスを望む」